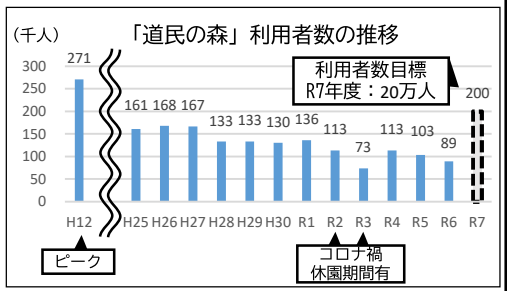
新たな「道民の森」活用方針（素案）の概要

＜期間＞　令和８年度～18年度

1　「道民の森」の現状と課題

利用者数

・平成12年度の27万人をピークに次第に減少
・コロナ禍による休園等の影響で、令和３年度は７万人程度に急減。令和６年度は約９万人。コロナ禍前の水準（13万人台）に戻っていない



課題

・多様で特色のあるプログラムの提供や、道民の森に関する効果的な発信など、森林に関心を持ってもらう仕掛けづくりが必要
・企業等の多様なニーズに応えるとともに、教育関係機関向けのプログラムを更新するなど、森林づくり活動の促進が必要
・食事や新たな体験サービスの提供など、利用者の満足度を高めるサービスの向上が必要
・窓口の機能強化や安全で快適な利用環境づくりなど、管理運営方法の見直しが必要

2　活用方針の基本的な考え方

あるべき姿

「道民との協働による森林づくり」に向けて、道民運動としての木育を推進するため、多くの道民が森林づくりに参加できるよう、「森で遊び」「森に学び」「森を育てる」機能を充実させるとともに、地域等と連携して新たな魅力を構築し、道民一人ひとりが森林や木材にふれ親しむ活動の拠点となる施設を目指す

実現に向けた視点

・様々な世代が森林とふれあう機会の創出
・森林体験学習や森林づくり活動のフィールドの提供
・地域や企業・団体と連携したサービスの向上
・安定的な運営体制の構築

3　目標指標（令和18年度）

考え方：多くの方が道民の森を訪れ、森林にふれ親しんでいただく

指標名	実績及び目標値
利用者数	８万９千人(R6)⇒ 15万人
催事プログラム参加者数	4,899人(R6)⇒ 8,300人
教育機関等及び企業等の森林づくり活動及び研修の場としての利用回数	157回(R6)⇒ 270回

4　活用の方向性

様々な世代が森林とふれあう機会の創出

○プログラムの充実
　・幅広い世代を対象とした多様なプログラムの提供
　・森林のガイド等を行うボランティア団体等の活用
○「協働の森林づくり」活動の拠点としての活用促進
　・SNS等による「道民の森」の特色のＰＲ強化
　・会員制度導入による道民の森ファンの拡大

森林体験学習や森林づくり活動のフィールドの提供

○教育関係機関等による森林フィールドの活用促進に向けた森林学習の機会提供
○企業等による森林フィールドの活用
　・生物多様性保全への貢献など多様化する企業等ニーズへの対応
　・育樹を含めた継続的な利用の促進

地域や企業・団体と連携したサービスの向上

○近隣の食・観光施設と「道民の森」を周遊する仕組みを検討するなど「食と観光」による地域連携
○企業・団体等との連携による森林におけるアウトドア活動などプログラムの提供

安定的な運営体制の構築

○相談窓口の強化
○施設・設備の維持管理等
　・快適な通信などに向けた利用環境の整備
　・管理体制の見直しなどインフラストックの適正化
○管理運営方法
　・インターネットによる販売経路の多様化
　・クラウドファンディングの企画など収入の多様化
○会議の設置

5　各地区の活用形態

神居尻	森林学習、体験活動、森林整備フィールド
青山ダム・牧場南	森林整備フィールド
一番川	キャンプ場
月形	キャンプ場、木工芸
青山中央	情報発信、森林整備フィールド